

●●●●●●●●●● 「S-KYT」研修を実施して ●●●●●●●●●●

熊本市消防団 副団長
第三方面隊 方面隊長 西浦 健輔

1 はじめに

熊本市は、平成24年4月1日に政令指定都市へ移行し、人口は推計738,371人（平成26年4月1日現在）を有する熊本県の中心都市で、熊本城を中心に発展した城下町は森の都と呼ばれています。市のシンボルは森の都にふさわしく、市の木は「イチヨウ」、花は「肥後ツバキ」、鳥は「シジュウカラ」です。

本市は東に阿蘇山、西に金峰山、北は立田山に囲まれ、市内には一級河川の白川が流れています。気候は有明海との間に金峰山系が連なる内陸性盆地で寒暖の差が大きく、このため、ミカン・スイカを代表する果物、ナス・キュウリ・トマト・キャベツを中心とした全国でも高い生産を誇る都市型農業、水産業、そのほかにIC産業、サービス産業が中心の都市です。

本市消防団は、平成24年4月1日の政令指定都市への移行に伴い、5区体制に向けて再編成を行い、16個の方面隊を組織し、平成26年4月1日から、運用を開始しました。平成26年4月1日現在、1団、16方面隊、87分団、1トランペット隊、4,922人の団員（うち女性は166人）が、都市化の発展や災害の複雑、多様化、大規模化に備えて、消防操法大会、中継送水訓練、定期的に区・地域での「防災訓練」を区・地域・消防・消防団で一体となって実施するとともに、災害現場に即した警防技術訓練を市一体となって行うなど、基本訓練と実践訓練を行っております。また、平成26年4月1日には、機能別団員制度のひとつである防災サポーター（大学生140名）を創設し、市民のニーズに対応した消防団を目指しています。

2 S-KYT研修開催の経緯

本市消防団のなかで、東区消防団が今回、S-KYT研修を初めて受講することになりました。これは毎年、方面隊で独自に行う研修・訓練のひとつとして、今年から5区体制になったのを機に東区の一体感を育てるために、このS-KYT研修会に取り組むことにしました。

東区は住宅地が多く、この中を河川が流れていて、中心部に大きな湖「江津湖」があり、大雨が降ると、短時間で地域が氾濫してしまう都市型水害が発生する地域ですので、消防団員には、災害の複雑化・多様化・大規模化に潜む危険をいち早く察知し、いかに安全確実に作業対応ができる能力が求められることから、現場活動における安全災害防止の対応能力向上に役立てるため、東消防署の担当者と相談し、S-KYT研修を消防基金に申し込み、研修を実施するに至りました。

3 研修の様子

平成26年11月9日（日）の午前9時から12時まで、南九州交通共済会館を会場として、研修を開催しました。研修には東区14分団から団員（班長以上）72名が12班に分かれて参加しました。

4名の講師のかたがたの助言を受けながら、作業・訓練の場面のイラスト・シート等を用いて、第1から第4までの段階で話を進めていくという研修で、日頃から訓練・点検時の消防団の最小単位のチームが集合して行う場面想定の中で「みんなの合意で絞り込むことがたいせつ」であることを学びました。

そして、場に潜む危険を見抜く力を日ごろから身につけて基本を守る意識を植えつける訓練や、安全対策としての「ヒヤリハット体験のアンケー

ト調査」が予防につながることを学びました。

また、S-KYTの実技である指差し呼称を体験することで、一人一人が安全で誤りのない作業を進めていくために行う確認作業の重要性を学び、右手人差し指で対象を指し「よし」で振り下ろすといった基本を身につけることで、班としての一体感・連帯感が盛り上がりました。

さらに、健康KYという訓練では、リーダーになる人が、活動・訓練をする前に、メンバーに健康状況を自己チェックさせてメンバーの人々を観察し、具体的に「固有名詞」で問いかけて、健康状況を把握しておくことの重要性を学びました。

今回、班構成は、区になって初めての全体研修ということで、他の分団との交流も考えて班編成をし、一人一人に役割を決めておきましたので、ワイワイガヤガヤと話が進んで交流も深まり、活発な意見が出て、たいへん有意義な研修となりました。

この研修を通して、全員の発言を促すようなりー

ダーの言葉かけと目標を設けることと時間を決めて行うことのたいせつさをあらためて学び、各分団に持ち帰って実践したいとの意見が出ました。

4 今後について

今回の研修後、団長・理事会等で研修内容等を報告し、報告書を作成して提出しました。今後は、各区消防団で年間計画の中に入れて、研修を受講していきたいとの意見が出ました。今回は私たち東区消防団が初めて受講しましたが、団長会等でも他の区消防団も研修の受講を考えているようなので、団員の危険予知を高めるためにも、現場訓練活動における安全管理・健康管理、災害ゼロに向かって、今回の研修を市消防団活動に取り入れていきたいと思っております。

今回の研修の開催にあたり、御協力いただきました講師、東消防署、消防基金の担当者のかたがたに、あらためて御礼を申し上げます。



訓練中の様子1



訓練中の様子2



全員で指差し唱和の様子